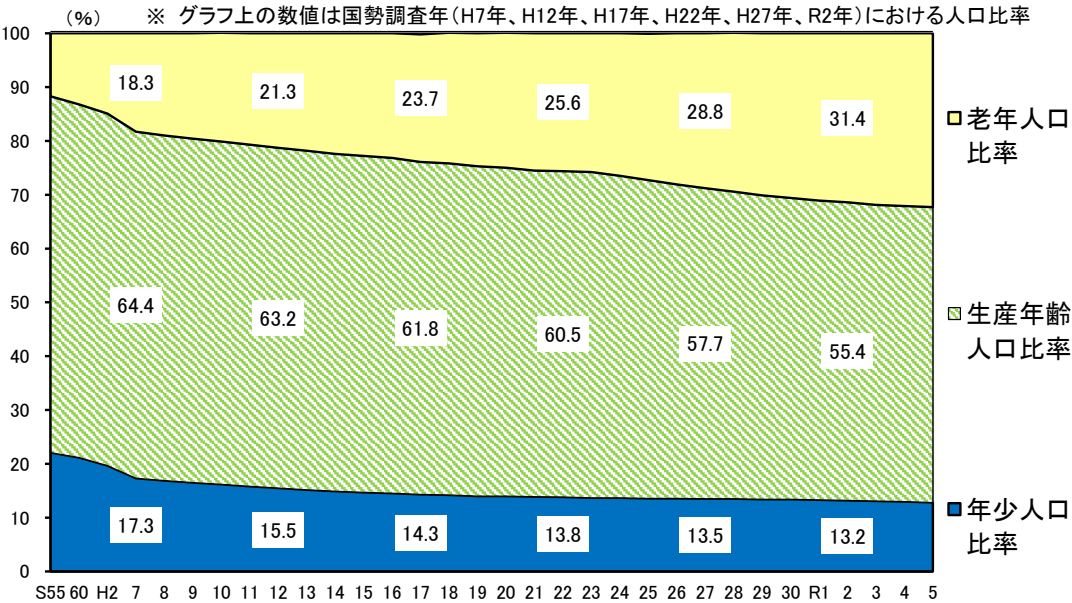


熊本県の年齢3区分別人口比率の推移



解 説

【概要】

令和5年の県内の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口12.8%（前年13.0%）、生産年齢人口54.9%（前年54.9%）、老年人口32.3%（前年32.1%）となっている。

昭和55年以降、生産年齢人口は年々減少を続けており、また年少人口も平成初期に2割を割り込み、それ以降も減少が続いている。

一方で、65歳以上の老年人口比率の推移をみると、昭和60年に13.2%だったものが、平成10年には2割を突破し、平成29年には3割を突破した。令和5年には32.3%となり、全国平均(29.3%)よりも早く高齢化が進行している。

- 年少人口
0歳から14歳までの人口
- 年少人口比率
 $\text{年少人口} \div \text{総人口} \times 100$
- 生産年齢人口
15歳から64歳までの人口
- 生産年齢人口比率
 $\text{生産年齢人口} \div \text{総人口} \times 100$
- 老年人口
65歳以上の人口
- 老年人口比率
 $\text{老年人口} \div \text{総人口} \times 100$

資 料 出 所	調 査 期 日	調査周期
「人口推計年報」総務省統計局	令和5年10月1日	毎年